新宿公民館便り

～つどい　まなび　つなぐ～

令和５年度　第 15 号
令和６年２月５日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿 2-16-14
電話　043-243-4343

先日、母が発熱したので診てもらったところ、コロナウイルス陽性との診断だった、と兄から連絡がきた。本人はいつもと変わらない様子だとのこと。４年ほど前だったら「コロナ陽性」と聞かされると何かしらの重い覚悟をしていたに違いない。令和５年５月にインフルエンザ等と同じ５類感染症に移行されたとはいえ、細菌に感染したのだから発熱しているわけで、それによって細胞が弱ってしまわないかと、小さくなってしまった母のからだを思うと心配ではある。いまだにコロナ感染症の恐怖と闘いながら介護老人ホームでお世話になっている一患者にも、北陸の被災地に暮らす方々にも、医療の手を差し伸べてくださる関係者の皆さんには感謝しかない。

ありがとうございます。助けてください。よろしくお願いします。

主催事業報告

「スマホ初級講座①」 1/23(火)

NTTdocomo の方にお越しいただき、スマホの使い方初級編として教えていただきました。

１回目は本当にこれから始める方へ、電源の入れ方、マナーモード設定のやり方、写真撮影の仕方、写真の削除の仕方などスライドを見ながら、また資料を使いながら丁寧に説明していただきました。参加した皆さんは、機種によっては説明画面と自分のものと違っていたり、ボタンの位置が違っていたりして戸惑うことも多かったようですが、スマホの操作をより楽しくスムーズにできるようになったようでした。

「スマホ初級講座②」 1/30(火)

２ 回目の講座ではインターネットの使い方や注意すること、検索の仕方、セキュリティについて、アプリ(特定機能のために作られたソフトウェア)の使い方や注意すること、などについての説明でした。参加者の皆さんが特に興味を持たれる内容なので、たくさんの質問の手が上がりました。サポートしてくれるもう一人の方も、席の間を動いて直接スマホに触れながら、一人一人の疑問に丁寧に答えてくれていました。

テキストを使いながら、またプロジェクターで大きく画面に映しながら説明してくれるのですが、『検索バーをタップ』(？)、『インストール』(？)、『アイコンをタップするとアプリの詳細が・・・』(？)などなど、教えてくれるはずの用語がよく理解できずに、なかなか次に進めないで困っているのは私だけでしょうか。間違えて触ってしまって、テキストと違う画面になってパニックのなってしまう経験はありませんか？・・・参加者の皆さんは、スマホの画面を凝視しながら、慎重に指を動かし、懸命に次に進もうとしていました。より豊かな生活を楽しめるようにしようと挑戦する姿でした。自分でやってみないことにはスマホの機能はわかりません。ただ、自分に必要な機能(アプリ)を上手に使いこなせればいいのではないかと私は思っています。怪しいメールにひょいと乗っかかってしまわないように、的確な判断は持ち合わせてほしいです。そして、膨大にあふれる情報や機能の中から、必要な時に必要な分だけ利用して、より快適なスマホ利用者になっていきましょう。

「金子みすゞの生涯と詩に触れる」 2/3(土)

「金子みすゞ童謡全集」など、多くの童謡詩集を発行している JULA 出版局の柴崎さんに講師をお願いし説明していただきました。児童文学作家・矢崎節夫氏が、3冊の遺稿手帳を発見したこと、50 年余り埋もれていた詩の数々を 1984 年に初めて出版して光が当たったこと、1930 年に 26 歳という若さで世を去ったみすゞの不遇の生涯、などを知ることができました。

「３．１１」の直後、テレビ画面に繰り返し流れていた『こだまでしょうか。いいえ、だれでも。』というフレーズは、誰にも耳に残っているのではないでしょうか。奇しくも今年の元日には、北陸大震災を目の当たりにしました。あぁ、あの詩かぁと、初めて金子みすゞを知る人も多いでしょう。私もそうでした、あの頃は。２年前に柴崎さんの話を聞いて、興味を持つようになり、今回２年ぶりに講師をお

願いした次第です。金子みすゞが 100 年前に見た視点や名もなくか弱いものへの眼差しを改めて教えられる詩は、みすゞ本人へ投影されているように思えて、その詩の持つ意味を深く考えることができ、静かに感情が揺さぶられます。何年たっても日本人の根っこにあるように感じます。全512編のうちのいくつかにでも触れる価値は十分にあるように思います。いかがでしょうか。

代表的な次の二つの詩を、声に出して読んでみてください。金子みすゞに触れてみてください。

私と小鳥と鈴と

私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面(じべた)を早くは走れない。
私が体をゆすっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく　海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、昼のお星は眼にみえぬ。
　見えぬけれどもあるんだよ。
　見えぬものでもあるんだよ。
散ってすがれたたんぽぽの、瓦のすきにだァまって、
春のくるまでかくれてる　つよいその根は眼にみえぬ。
　見えぬけれどもあるんだよ。
　見えぬものでもあるんだよ。

アンケートの一部を紹介します。

・金子みすゞのことを全然知らなかったなーと実感。いろいろ作品を読んでみます。・金子みすゞを知るきっかけになってよかったです。仙崎に行ってみたい気持ちになりました。・金子みすゞの短い人生の中に、心の繊細さや他を思いやる気持ちがあらわされている詩に接し、とても心が洗われました。・みすゞの表現する気持ちの大きさ、深さを感じました。金子みすゞ童謡全集を味わってみたい。・35年前にみすゞを知りました。改めていいなと思いました。・名前は聞いていましたが、本人の生涯とその詩に触れたのは初めてです。とても繊細でしかも奥深い詩、そしてわかりやすい言葉を選んで素直に心に入ってきます。さらに読んでみたいと思います。とてもよかったです。512編の詩を読んでみたくなりました。・矢崎節夫が世に出したみすゞの詩を、50年先、100年先の日本人にもしっかり伝えていこうとする心意気に、みすゞの詩のすばらしさとともに感動いたしました。

「フードドライブ」 回収期間は 1/31～2/13

以前にもお知らせしました、食品ロスの削減に向けた千葉市の取組です。「家庭で余っている食品を回収し、フードバンクなどを通じて食品を必要としている人に提供する」というものです。

回収条件として、**・賞味期限が明記され、かつ2か月以上あるもの・常温で保存できるもの・未開封で破損がないもの・お米は令和4，5年産のもの(玄米可)・アルコール類は不可** となっています。回収品目等、チラシをご覧になって公民館にお寄せください。新宿公民館1階事務室前に回収箱を用意しております。なお、幕張、打瀬、千城台、小中台、誉田の各公民館でも同じ期間に回収していますので、どうぞご協力ください。

季節の風景

2月3日は節分、なので2月4日は立春。とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。すっかり葉も落ちて枯れ木のようになっていた木々の枝先にも、よく見ると、冬の寒さにじっと縮こまって耐えている小さな新芽に気づきます。晩秋にすべての葉を落として終わりではなくて、冬の間に次の準備をしてきたのです。この、草の芽や木の芽がわずかでも萌えだしていることを冬萌(ふゆもえ)というそうです。皆さんの心の中の冬萌は？

声に出す日本語

早春賦　作詞：吉丸一昌　作曲：中田章

春は名のみの　風の寒さや
谷の鶯　歌は思えど
時にあらずと　声も立てず
時にあらずと　声も立てず

氷解け去り　葦は角ぐむ
さては時ぞと　思うあやくに
今日もきのうも　雪の空
今日もきのうも　雪の空

【裏庭に水仙　一輪】

春と聞かねば　知らでありしを
聞けば急かるる　胸の思いを
いかにせよとの　この頃か
いかにせよとの　この頃か

陽だまりの　河津桜も　歌いだす

（ 新宿公民館　館長　迎　浩二 ）